

## ▼編集後記

『ゲシヒテ』第6号をお届けします。若手から長老までいろいろな執筆者による、多様なテーマの論説、講演記録、書評を掲載することができました。今回、初めての試みとして、外国人研究者の講演記録を日本語に訳して掲載しました。本誌も少し国際化しました。

皆さまがご覧になっている本誌は、家内工業的な作業の成果でもあります。集まってきた原稿を規定の様式に従って割り付ける作業は、もっぱら、事務局編集係の役割です。とくに、今回のように図表が多い場合には、様々な調整が必要で、何度も修正してもらいました。また、翻訳の場合は、原著者、翻訳者、編集係、編集責任者のあいだで、メールのやりとりを繰り返して調整しました。本誌の趣旨の一つが、若い研究者を育てることなのですが、論文を掲載する機会をつくる、査読を通して指導をするといったことだけでなく、雑誌編集の基礎作業を習得してもらうことも、教育の一環と言えるでしょうか。(羽漫)

編集実務の任に就いて二年、早いもので交代の時期がやって参りました。昨年度と同様今年度も、手際の悪さを多くの方々にかけて頂きながら、刊行まで辿り着くことが出来ました。編集委員の先生方、執筆者の方々には只々感謝です。「期間労働」のこの仕事、限られた期間ながら、それぞれの論文に集中して向き合うことで、多くのことを学ばせて頂きました。作業は決して楽ではなかったものの、振り返れば多々得ることがありました。少なくとも、学術誌が如何に作られているかを学べただけでも、他に無い経験が出来たと感じております。

ややもすると「高尚なもの」と捉えられがちな学術活動も、人々の意思と努力、日々の生によつて支えられていることを改めて痛感した次第です。この点に関していえば、今号掲載の特集「日本のドイツ近現代史研究」に寄稿頂いた二本の論文もまた、学問と生の結びつきを強調しているように思われます。生と乖離することのない学問のあり方は、そしてそこに如何にコミット出来るのか、などと、青臭い思いを胸に事務局を離れ、再び机へと戻ります。短い間でしたが、有り難うございました。(TS)

## ▼編集委員

服部 伸 (同志社大学)  
高橋秀寿 (立命館大学)  
中野智世 (京都産業大学)  
近藤潤三 (愛知教育大学)  
丸島宏太 (敬和学園大学)

## ▼編集実務

鈴木健雄 (京都大学・院)

# ゲシヒテ

## 第6号

2013年3月31日発行

## ▼編集発行

ドイツ現代史研究会 (代表・田野大輔)  
〒602-8580

京都市上京区今出川通烏丸東入  
同志社大学文学部 服部伸研究室内

## ▼印刷

株式会社オーエム